

## 二. 猪名川を通じて大陸文化が入ってきた

猪名川は、丹波山系にその源を発し、多田、池田、伊丹、豊中、尼崎を流れ、神崎川と合流しています。

猪名川流域には、庄内、島田の遺跡のほか、上津島猪名川床、利倉、田能、勝部等と枚挙すればいとまがないほど多くの古代遺跡が発掘されています。ということは、古代から多くの人々が猪名川流域に住みつき、古くからこの地方に文化が開けたことを証明しています。また、大陸の文化も猪名川を通して、猪名川流域の各地に伝えられました。

猪名川流域には呉服（くれは）、畑（秦）、服部などはハタオリの渡来氏族が活躍した場所の名残りであろうと考えられる地名が多いのです。

このように、渡来氏族の活躍の場となった猪名川流域に古くから多くの氏族が住みついてきたことを「姓氏録」や「新選姓氏録抄」は綴っています。「姓氏録」の中には豊島連（てしまのむらじ）の名が見られますし、庄内地方に関係があるのではないかと思われる氏族では「新選姓氏録抄」の中で棕橋部連（くらはしべのむらじ）、島首（しまのおびと）、島毘登（しまのひと）の名が見られます。

庄内幸町・庄内栄町三丁目に今から九十年ほど前まで「黄金の森」と呼ばれる小丘がありました。この地域に小集落があり、庄本新家と呼ばれていました。この小丘は小字で「<sup>くらはしやま</sup>棕橋山」と呼ばれ、この小丘に稻荷神社が勧請されていました。

現在はこの跡地に「<sup>こがね</sup>黄金の森公園」（写真）と祠があるのみです。この「黄金の森」には次のような伝説が残っています。「土地の長者は黄金の鶏をこの小丘に埋めましたが、この黄金の鶏が正月になると、一声大きな声で鳴いた。」とされています。この小丘を今から八十年ほど前に開墾すると、須恵器等が出土したと言います。この小丘がこれら氏族と何らかの関係があるのでしょうか。



黄金の森公園